

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	長浜市立長浜小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	4	5	5	4	33	54
児童数	177	168	166	160	187	165	8	1031	

研究の概要

1. 研究主題

学力のより一層の向上を図るための きめ細かな指導のあり方を求めて ～算数科を通して～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年 算数科 児童の理解の状況に差が出やすく 系統的な積み上げが必要な教科であるため。
--

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 学力のより一層の向上を図るための きめ細かな指導のあり方を求めて ～算数科を通して～</p> <p>研究の見通し 現在までのTT等による指導方法の経験を生かし、少人数学習集団による指導を積極的に推進する。 このことにより、児童一人ひとりの確かな学力の定着と学習習慣の確立を図るとともに、学ぶ意欲や技能・能力等の向上を図る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>研究内容 学力向上のための学習指導法改善 ・少人数学習指導を生かした学習指導の改善 ・TTを生かした学習指導による学習指導の改善 ・多様な手法を生かした総合的な学習指導の改善</p> <p>研究方法 1、少人数指導について 実施学年 全学年(1年はTTを基本とする) 少人数学習指導を行う教科 算数科(1年は複数指導加配により全領域で実施、2年は「数と計算」を中心とした単元とするが児童の実態や単元の特性に応じて実施、3年～6年は全単元を対象とするが児童の実態や単元の特性に応じて実施) 少人数学習指導者 担任、少人数指導加配教員、教務部、複数指導加配(1年) 本校は学級数が多いので、少人数指導加配教員だけでなく教務等も含</p>
--------	--

めた指導体制をとり、効率的な指導を確立していく。

指導方法

1年はTTによる指導、2年は単元に応じてTT等による指導、中、高学年は児童の実態や学習内容に即し多様な指導法の一つとして学習形態を工夫した少人数学習指導を行う。

具体的には担任、教務、少人数指導加配教員が協力して次の事項を行う。

- ア、指導計画や指導案の作成
- イ、必要な教材教具の作成
- ウ、少人数学習集団の編成
- エ、学習カルテ（評価）の作成

少人数学習集団の編成

少人数学習集団の編成に当たっては、子どもの実態や学習展開に応じて学ぶ意欲が高まるよう習熟度別グループ編成を中核とするが、等質グループ編成、学級一斉授業等も取り入れる。

習熟度別グループ編成にあたっては、個別の指導も取り入れながら子どもにもグループを選択させる。

少人数学習推進委員会

学力向上推進委員会をうけて少人数学習推進委員会を開催する。

メンバー；教務、少人数指導加配教員、各学年主任

（1学期） 4月；具体的実施方法について
実施についての検討

7月；1学期の取組みの反省について
2学期の取組みについて

（夏季休業期間中）；教材教具の作成

（2学期末） ；2学期の取組みの反省について
3学期の取組みについて

（3学期末） ；実践のまとめ、評価、来年度に向けて

その他、公開授業の実施に関する事項等、必要に応じて開催する。

推進委員会とは別に、学年ごとに新しい単元に入る前に打ち合わせを行い、単元の進め方、学習形態、編成等を十分検討する。日々の連携を大切にする。

2、朝の学習「長小タイム」、補充指導等について

授業の中での繰り返し練習

・算数科の授業のはじめに毎回5分間程度の計算練習を実施する。

（100マス計算、プリント等）

長小タイム（朝の15分学習）

- ・計算問題、漢字学習、読書に取り組む。
- ・児童の読書意欲を高めるための指導の工夫をする。

補充指導

- ・各学年で月ごとに裁量の時間を中心に補充指導計画を立て実施する。
- ・長期休業中に補充指導を実施する。

平成
16
年
度

テーマ

学力のより一層の向上を図るための きめ細かな指導のあり方を探る
～算数科を通して～

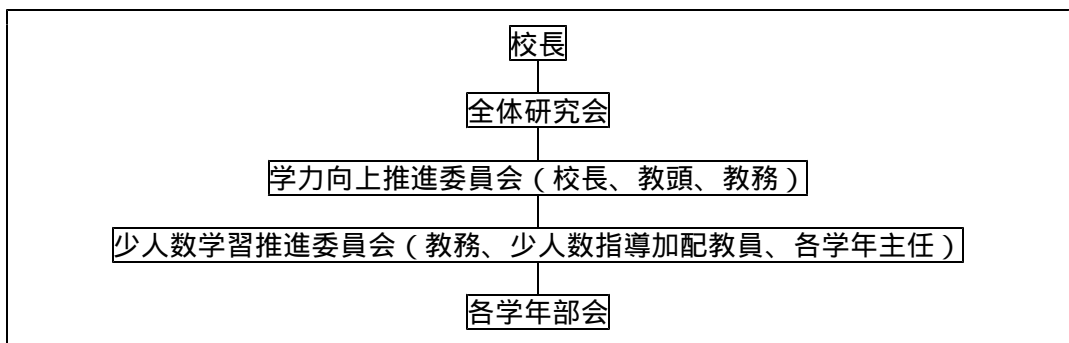
研究の見通し

本校は児童数が1000人を越える大規模校である。平成15年度の研究を生かし、大規模校における少人数学習集団による指導体制と指導のあり方を探り、児童一人一人の学習内容に対する理解や習熟の程度等に応じたきめの細かい指導を通して、学力の確実な定着を図るとともに、自学する力と学ぶ意欲の向上をめざす。

研究の内容・方法

<p>研究内容</p> <p>学力向上のための学習指導法改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学習指導を生かした授業改善 ・T Tを生かした学習指導による授業改善 ・多様な手法を生かした総合的な授業改善 <p>研究方法</p> <p>少人数における指導法改善の推進、指導と評価の一体化を目指した評価活動の推進、子どもの学習意欲を喚起する学習環境の整備、保護者との連携の強化</p>
--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>成果</p> <p>習熟度別指導を行うことによって、算数が苦手な児童の学習意欲が高まり、学習内容の定着を図ることができた。また、進んで学習に取り組む児童が増えた。</p> <p>低学年ではT Tを中心にした複数指導体制をとったことにより、つまづきのある児童が集中して学習に取り組むことができた。</p> <p>課題別グループや習熟度別グループに分ける時に、担当教員の人数を増やすことで児童の選択肢を多数設定することができ、意欲的な学習への取組みが見られた。</p> <p>「長小タイム」のプリントを子どもたちが進んで活用したり、補充指導に進んで参加したりして、学習意欲が高まってきている。</p> <p>少人数指導を学年全体で進める方法と学級単位で進める方法を実施して、大規模校における少人数指導の効果的なあり方を探ることができた。</p>

2. 今後の課題

<p>習熟度別グループ編成はオリエンテーションをおこない個別に指導をしながら児童の希望を尊重したが、そのグループに合わない場合もあり、コース選択においても個別の指導の重要性を感じた。</p> <p>単元の中で何回かグループ編成替えを行ったため、指導者の個々の児童理解が不十分になり、個に応じた指導の充実に課題があった。</p> <p>8～9人の指導者が日々の授業について打ち合わせをする必要があった。</p> <p>関心・意欲・態度の評価について担任と少人数指導担当者との連携に課題が残った。</p> <p>少人数指導の取組みの成果を正確に見取る方法を考えていく。</p>
--

学力等把握のための学校としての取組

平成15年度市統一学力テストの実施

調査目的 指導教諭の作成した基準テストを実施し、基礎・基本の定着状況を把握し、指導方法及び指導体制整備の資料とするため。

実施期日 平成15年6月10日(火) 1・2校時

実施対象 第2学年～第6学年

実施内容 算数科 国語科

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・平成15年度学力向上フロンティア事業に係る公開授業

第1回公開授業

期日 平成15年10月23日(木)

内容 第6学年 算数科 「比」

第2回公開授業

期日 平成16年2月18日(水)

内容 第4学年 算数科 「分数」

・インターネットによる研究成果の公表

・研究集録の作成

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 ■ 15年度からの新規校 □ 14年度からの継続校
- 【学校規模】 □ 6学級以下 □ 7～12学級
 □ 13～18学級 □ 19～24学級
 ■ 25学級以上
- 【指導体制】 ■ 少人数指導 ■ TTによる指導
 □ 一部教科担任制 □ その他
- 【研究教科】 □ 国語 □ 社会 ■ 算数 □ 理科
 □ 生活 □ 音楽 □ 図画工作 □ 家庭
 □ 体育 □ その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ■ 有 □ 無